

都立 第五福竜丸展示館ニュース

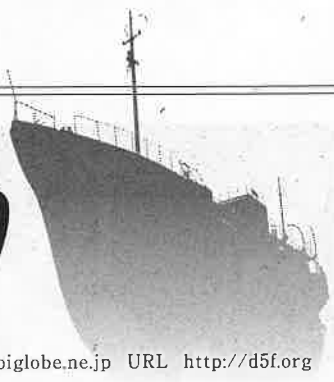
2010.01.01  
No.355

(1・2月合併号)

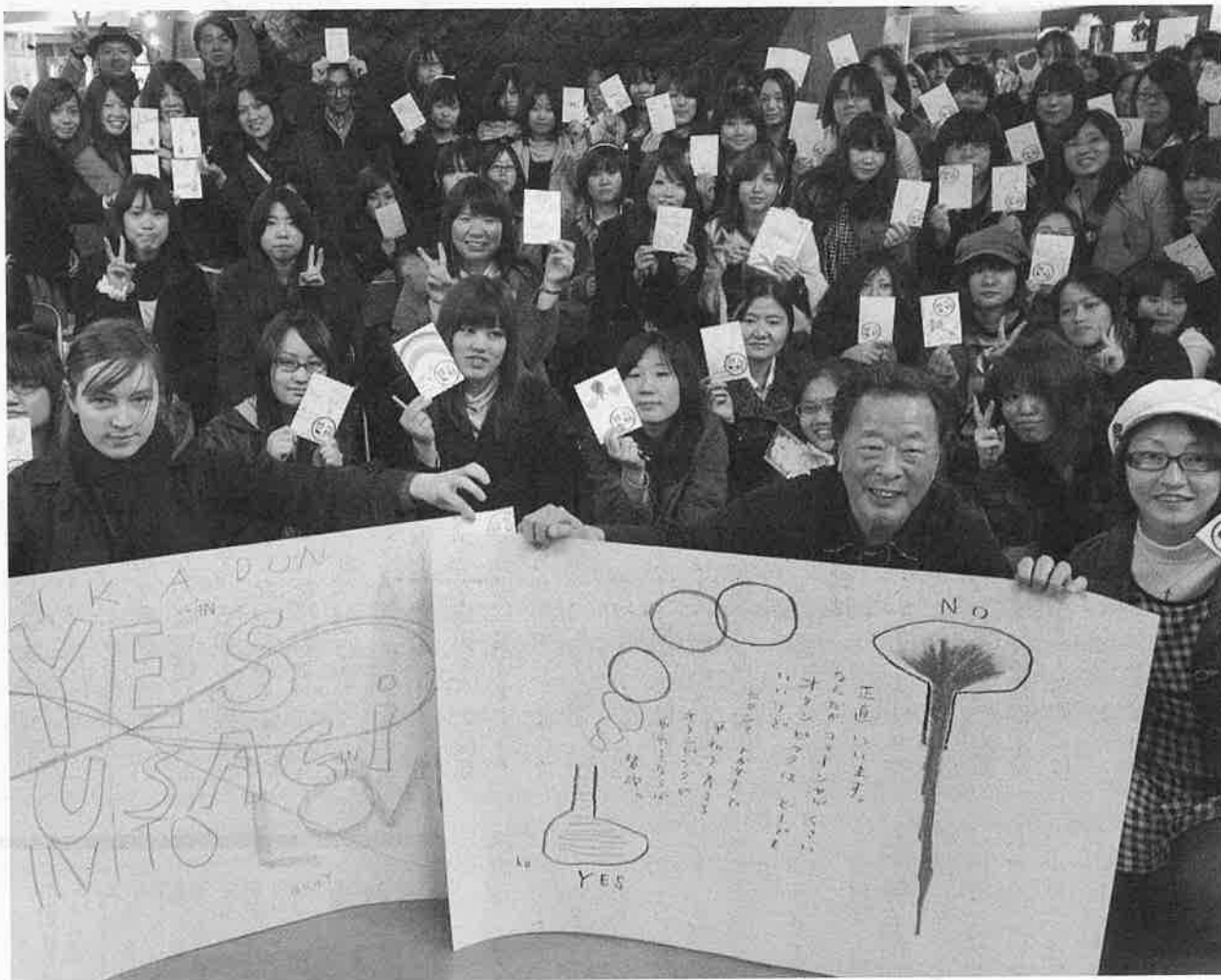
# 福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



核なき地球へのメッセージ。黒田征太郎展のオープニングで黒田さん（前列右2人目）と若者たち



## 核兵器のない世界への 希いをひろげる年に

公益財団法人第五福竜丸平和協会

代表理事 川崎昭一郎

明けましておめでとうございます。

本年は、五年毎に開催されるNPT再検討会議が予定され、昨年のオバマ大統領のプラハ演説とノーベル平和賞受賞を受けて、国内外で原水爆禁止を求める世論と行動の盛り上がりが見込まれています。

水爆実験の核被害を伝える世界で唯一のミュージアムを運営する第五福竜丸平和協会は、応分の役割を果たさなければなりません。

公益法人制度改革の中で、昨年に秋に私どもの法人は公益財団法人への移行が認定されました。定款に掲げられている「都民をはじめ広く国民の核兵器禁止・平和思想の育成に寄与する」という目的達成のため、公益目的事業という自覚に立つて活動せねばなりません。

公益財団法人としての活動を発展、充実させるために、役員、ボランティアともども新しい気持ちで、創意工夫を加えながら、尽力する決意です。

新年にあたり、皆様方のますますのご健勝とご活躍を期待するとともに、倍旧のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

(写真撮影) 飯田邦生



が見えるんですよ。日本のことが。

### 忘れてはイケナイ

ちょうど、戦争が終わってから五〇年が経ったころでした。日本の政治家たちの気配をみますと、「もうあの戦争のことは忘れちゃおうよ」「もう五〇年も経ったんだからなかつたことにしよう」と。でも世界には忘れない人たちが

いっぱいいますよね。やっぱりあったことはちゃんと見据えていかなければ、第五福竜丸のこともちゃんと覚えとかなあかんねん。

毎日、福竜丸、福竜丸って



友だちと一緒にカードを書く

思わなくてもいいですよ。でも例えば「マグロのトロ」がどうか、「大間のマグロ」はどうとか聞いたたら、マグロもそういえば放射能あびていた時期あんねんな、ぐらいのこと頭かすめるのが大人ですよ。それで、なんなんだろうって思いました。

### 戦後なんて一度もない

そんなところに一冊の本『野坂昭如戦争童話集』と出合うんです。そこに書いてあったのは、人類の歴史は戦争の歴史だと。戦争は終わったことがない。いつもどこかで戦争している。自分たちに関係ないといえないですね。

こうして話すと当たり前前に聞いてくださると思うんですけど、ボクはビックリしたんですね。そうなんや、と思っただんです。ボクは他人のことなんか関係なく生きてましたから。

もう一つは戦争が始まったから、人間同士の殺し合いが始まったら、弱いところからまず犠牲になるって。

弱い部分っていうのは赤ちゃんと小さな子じゃないん

ヒロシマ・ナガサキ議定書を読む絵本の前書き



ですね。今一瞬みなさん弱いところからって言った時になんとなく小さな子どももって思われたでしょ。野坂昭如さんはもつと視座、視点が大きく深くって、その辺に生えている草とかね、小さな貝、ちっちゃい魚。鯨であるとか象であるとか命あるものすべて、人間がコントロールしているのと勝手に思っているものが巻き添えになる。

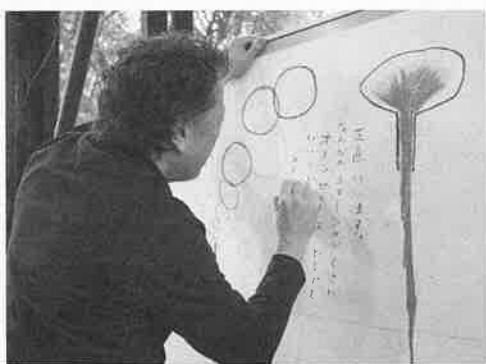
これは今はやりのエコロジーに通じますよね。今ボクらの周りでやっているエコっていうのは僕はエゴだと思っます。人間中心のエゴですから。そんなことも野坂さんはさらっと書いているんです。

### 人間は五分五分

戦争というのは、勝ったほ

うが負けた方を自由にできるということなんです。簡単にいうと。

本来人間っていうのは五分五分で、あなたたちは二一とか二二で、僕は七〇ですけども、それは単に年とった数が違うだけで、ボクの知らないことを知っているあなたたちもいるし、あなたたちがどうしても知らないことをボクが知っていることがあるし、それを教えあつていたり補っていかつていうのが人間だから五分五分なんです。ですから僕は小さい子どもにたいしても赤ちゃん言葉でしゃべったりしたことはほとんどないですね。普通だと思つてい



ところが戦争っていうのはそうじゃない。いびつな関係ができますよね。

せっかく  
生まれてきたんだから

僕も愛するものもおりますが、好きな子どももいれば大事な友達もいっぱいいますみんな「奇跡の子ども」です。だから、自分は人を殺すのもいやだ、殺されるのもいやだ。照れずに言います。

いろんなことを僕なりに勉強して、これから生きていく人のために、お役にたたええなあ、思つてピカドンをやっています！

まじめに言いますよ。いずれはみなさんも恋愛されるでしょう。「生まれてきてよかつた」っていっぱい思つてくたさい。

一緒にやっていけることはやりましょうよ。他人のことだから、知らない人ことはほうっておいてなんて思わないで一緒にね。その方がいいじゃない。せっかく生まれてきたんだから。

(特別展は3月22日まで)

連載①

## 晴れた日に

## 雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

## 青い空に凧よあがれ

正月は、東京の空にも青空が戻ります。東京の東、江東・夢の島。近くの海の青さを映したような空に、いくつもの凧が揚がりました。

第五福竜丸保存委員会が主催する「新春凧上げ大会」(第一回)の催しです。一九七三年一月一四日の日曜日でした。「凧上げ大会」は第五福竜丸保存を広く知らせということと同時に、地元の人びととの交流をいっそう深めたいとの思いが込められています。

「凧」は古く中国からの伝来。江戸時代以後、凧を揚げる風習は、江戸(東京)では正月の藪入り(一月一五、一六日)のころ、大阪は二月の初午のころ、長崎は

四月、浜松は五月、白根(新潟)は六月、沖繩は一〇月など、各地にその地の風情が加わり伝統がのこります。

夢の島の「凧上げ大会」も、地元の保存運動の人たちとの相談で、古くからの風習になり、一月一五日(藪入ならぬ成人の日)前後の日曜日に行うことにしたのでした。

夢の島海域に放置されていた第五福竜丸(当時の船名は「はやぶさ丸」)の保存が取り組まれてようになってから五年、夢の島の埋め立て工事が進むなかで、第五福竜丸の船体を支える杭がまわりに打ち込まれ、地上に固定される状態にまで保存がすすんで

ていました。

## 福竜丸みんなの船

「凧上げ大会」は、その陸揚げされた福竜丸前の広場で行われたのでした。一四日当日は快晴。親子連れの参加が目立ちました。親睦を十分に果たす催しとなりました。

焚き火がたかれ、あたたかい甘酒が地元の保存運動の人たちによつてふるまわれました。参加者には、もれなく参加賞が、凧のデザインと揚がり方の優れた凧には保存委員会から症状と賞品が用意されました。賞品は、児童書、絵本、玩具、江戸凧など。これらの品々は、出版社や地元の商工会、労働組合の協力で寄せられたものでした。

「第五福竜丸」「平和」「ベトナム支援」などと描かれた凧を背に、子どもたちが風に向かって走りまわりました。「第五福竜丸みんなの船」の願いが、寒風をつきぬけました。

## 広田さんの靴の跡

当時、整備工事がすすんでいたとはいえ、まだ埋め立てのぬかるみが随所に残っていた

(注) 広田重道さん

(一九〇七—一九八二)

第五福竜丸保存運動の先頭にたつて尽力し、第五福竜丸平和協会発足より亡くなるまで専務理事を勤める。

ました。ぬかるみといえば、広田重道さんの靴のことをひとしおに思います。

第五福竜丸が見捨てられていた一九六八年ころの埋め立て地は、まさにゴミの山。海の水と溜まり水と泥、歩けば足が容赦なくぬかるみにぬめりこむのでした。広田さんはそのぬかるみのなかを第五福竜丸(「はやぶさ丸」)を見回ったのでした。

「靴が月に一足駄目になる」——ながく横須賀に住み、横須賀、神奈川県、日本平和委員会、日本原水協などの役員として、また、戦前の反戦同盟から反帝同盟初代書記長としての経歴と人となりを知るものには、細身の背広で茶系統の手入れのいい靴を履いていた広田さんの変身を畏敬をもって見ていたものでした。

広田さんは住まいを横須賀から、第五福竜丸永住の地となる同じ江東区の富岡に移します。富岡八幡宮や深川不動の街です。第五福竜丸とともに歩いた広田さんの靴の跡をもう少し歩いてみることにします。

## 山村茂雄・やまむらしげお



一九三二年生まれ。第五福竜丸平和協会前理事。五〇年代後半より原水爆禁止日本協議会に勤務、情報宣伝部、機関紙・出版物の編集、ポスター制作などに携わり、原水爆禁止運動に参加・協力するデザイナー、詩人、作家、写真家などと親交を深める。第五福竜丸保存運動に当初から参画。協会評議員、一九九七年より二〇〇九年まで理事。



平和をねがう手作りの凧

## 丸木美術館を訪ねて

遠藤 昌樹

秋も深まった十一月五日、第五福竜丸ボランティアの会は、今年の研修旅行として埼玉県東松山の丸木美術館を訪ねました。

この日は、協会理事の川口重雄さん（高校教諭）が、案内役として参加。丸木美術館近辺の歴史についてうんちくを傾けられ、古代の日本と渡来文化、都幾川水系の高麗人の足跡、馬の飼育、武士団の形成、封建社会の成立から現在の焼トリ（焼トン）街道の成立などについて興味深く解説されました。

## 埼玉の戦争と平和を歩く

最初に見学したのは、古墳時代の横穴墓跡の史跡である吉見百穴と、その文化遺産のかなりの部分を破壊して造られた中島飛行機株式会社吉松地下工場跡です。

墓穴がつけられた地政学的分析と戦争のため地下工場を

造った事情は同じような発想だとすれば、文字どおり軍国主義の墓穴だったのでしょうか。不気味に光るヒカリゴケがあつた世から告発しているようでした。

つづいては、埼玉県平和資料館を見学。国民学校の教室から防空壕への避難の体験学習をしました。仲間の戦争経験者は、こんなもんじゃなかったとの感想をつぶやいていました。展示年表の中の「南京事件」や「慰安婦」の記述に「新しい紙」が貼ってある箇所を見つけて、現代史の問題点を考えさせられました。



吉見百穴を見学する一行

## 原爆の図

バスの中で、同乗した丸木美術館の鶴田常務理事から、美術館についての概説をうけている間に到着。

「宋銭堂」「痛恨の碑」をめぐって原爆観音堂に来ると、堂の中の千羽鶴の中に朝霞一中の校名がありました。つい先日、展示館で朝霞一中三〇〇名の団体見学にビキニ事件についてのガイドをしたばかりでした。この学校の平和学習についての取り組みの深さを感じました。

美術館では、企画展「中村正義展―美の秩序に挑んだ画家」が開催されており、岡村学芸員が詳しく解説して下さいました。不合理な権威主義に抵抗して自己を見つめた画風を發展させた胸に迫る顔、顔、顔、人間の形の舞妓。迫るものがありました。丸木美術館の存在理由と繋がるものがあることを感じました。

つづいて第五福竜丸「焼津」の絵の前で、原爆の図についての解説をうけました。私は、美術館を見学するのは二度目ですが、前回は、ただただ絵

の前で原爆の悲惨さ・恐ろしさ、おどろおどろしさを感じ、圧倒されるばかりでした。しかし今回は、丸木夫妻が描いた原爆の図は、被爆数日後に位里さんが、またその数日後に俊さんが広島に入り見聞きした悲惨な状況、体験と印象の上で描かれている、しかし夫妻がその時見たことをそのまま描いているのではない、二人は、被爆者たちから寄せられたたくさんの方々の体験、実情などを総合して、それを芸術にまで高めて描いたのであり、決して個人的な印象だけで描いているのではない、という説明をうけました。

私は、悲惨さ・恐ろしさだけでなく、なぜこの絵を描くのかというお二人の意志と芸術性、美しさ、構図の安定感、そして命、人道に反することは許さない心の深さ強さを作品から感じることが出来ました。

## 友の会との交流

館内から、明るい庭に出ると、強烈な秋がありました。都幾川の流れる濃青の淵の手前、陽光にきらめかせせらぎ

の辺の河岸段丘の一面にある流々庵で美術館ボランティア友の会のみなさんによる心づくしのカレーライスに舌鼓をうち、満腹になりながら、交流会を持たせて頂きました。限られた時間でしたが、お互いの活動紹介をし、交流しました。

友の会のみなさんからの話は、美術館と作品への愛着や丸木夫妻の画家として人間としての生き方に心から共鳴して、骨身を惜しまず協力する姿勢が伝わってきて圧倒されました。また、みなさんのなごやかでゆつたりした会のみなさんごまに感じました。

これからもアイディアを出し合い、互いの会の発展を考へる交流をしたいものと思えます。核兵器でつながっている「原爆の図」と福竜丸は、核も戦争もない平和を築くための発信をいっそう広くつづけていくことでしよう。平和の願いを届けるメッセージとしてボランティアの役割もますます大きいと思えます。（第五福竜丸ボランティアの会世話人）

# 公益財団法人第五福竜丸平和協会

## 発足記念会開かれる

第五福竜丸平和協会は、一月二日に新たに公益財団法人としてスタートしました。これを受けて、一月二八日午後、日頃から協会の諸事業に支援・協力される方がたに発足とその経過を報告する記念会が、学士会館で開かれました。

会には、七〇人が集い協会の川崎昭一郎代表理事が挨拶をかねて報告しました。報告では、最初にビキニ水爆実験被災と第五福竜丸の歴史をたどり、保存のとりくみと展示館の開館、第五福竜丸平和協会の足跡を紹介しました。つづいて新しい公益法人について、その特徴と内容についての説明（七面参照）、協会が都の認定の公益財団法人としてはきわめて早い時期の発足となったことなどが報告さ



パワーポイントを使い報告する川崎代表理事



新旧役員を紹介し労をねぎらう

### 公益財団法人第五福竜丸平和協会の役員

#### 評議員

- 浅見 清 秀 (日教組元副委員長、原水禁元副議長)
- 岩 佐 幹 三 (金沢大学名誉教授、日本被団協事務局次長)
- 岩 垂 弘 (元朝日新聞社編集委員、平和・協同ジャーナリスト基金代表運営委員)
- 大 石 又 七 (第五福竜丸元乗組員)
- 桂 川 秀 嗣 (東邦大学名誉教授、物理学専攻)
- 岸 田 正 博 (宗教者、宗教法人多聞寺代表役員)
- 猿 橋 則 之 (「女性科学者に明るい未来をの会」専務理事)
- 榛 葉 文 枝 (元中学教員、私立大学非常勤講師、数学専攻)
- 高 原 孝 生 (明治学院大学教授、国際政治学)
- 日 塔 和 彦 (東京芸術大学客員教授、文化財建造物保存専攻)

#### 理 事

- 奥 山 修 平 (中央大学、科学技術史専攻)
- 川 口 重 雄 (高校教員、平和・歴史教育、丸山真男手帖の会代表)
- 川 崎 昭 一 郎 (千葉大学名誉教授、物理学専攻)
- 坂 野 直 子 (財団法人日本青年館公益事業部)
- 山 本 義 彦 (静岡大学理事・副学長、経済学専攻)
- 監 事
- 澤 藤 統 一 郎 (弁護士)
- 清 水 幹 雄 (公認会計士)

れました。

### 各界の参加者 なごやかに懇談

記念会には、東京都、広島市、長崎市、焼津市などからメッセージが寄せられ川口重雄理事より披露されました。

東京都建設局東部公園緑地事務所の上杉俊和所長からは、「公益財団法人となり、より一層、第五福竜丸展示館が、都立公園から発信する社会学習への効果に寄与し時代を超えて平和を希求する動機



参会の方々の懇談が広がった

付けの一助となるようお願いいたします」との言葉が寄せられました。

つづいて川崎代表理事から旧財団の役員への謝辞と公益財団法人の役員紹介がありました。

その後、会場を移して懇親会がもたれ、日本被団協の岩佐幹三さんより挨拶と乾杯の発声をいただき、軽食をとりながらのなごやかな懇談の輪がひろがりました。



# あたらしい公益法人についての解説

川崎 昭一郎

のは官庁の許可を要せずに法人の設立ができることだ。

また、公益認定は明確に定められた基準により民間の識者が行うことにした。

この改革により、民間非営利部門の活動の一層の発展が期待される。まさに新公益法人制度がめざす「民（みん）による公益の増進」である。

\*

新制度は新しく作られた次の三つの法律（二〇〇八年一月一日施行）に基づいている。

①全ての法人が従わなければならない「一般社団・財団法人法」

②一般法人の中から公益法人を認定するための「公益法人認定法」

③これら二つの法律の施行に伴う関係法律を整備する「整備法」

これまでの社団法人・財団法人は二〇〇八年一月一日から五年間の移行期間に公益社団・財団法人への移行認定申請を行うか、又は一般社団・財団法人への移行認可申請を行うことができる。五年間に移行申請を行わなかったか、

行っても認定又は認可が得られなかった法人は解散したものとみなされる。

法人の総数は二万四千、二〇〇九年一月一日現在で認定又は認可申請を行った法人は三三〇、認定・認可が得られた法人は六五である。

公益性については明確な定めがある。

\*

①第一号から第二号までに整理されたいずれかの事業の種類に当てはまること。

事業の種類立ては全ての法人がどれかに収まるように作られている。

②そして重要なのは「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する」ことである。

二二項目の中に「平和」がないので、当法人は第九号の「教育・スポーツを通じて心身の健全な発展と豊かな人間性の涵養に寄与する」を選んだ。

当法人の目的は定款に次のように述べられている。

昭和二十九年三月一日ピキニ水爆実験の被災船第五福竜丸を記念し、原水爆被害の諸資料を収集・保管・展示することにより、都民をはじめ広く国民の核兵器禁止・平和思想の育成に寄与するこの目的を達成するために、主に

①公益目的事業として、「第一五福竜丸及び原水爆被害に関する資料の展示保存と普及広報事業」を行い、また、一部ではあるが、収益事業等の「等」に当たる収益事業以外の

②「その他事業」として「出版物・記念品等頒布事業」を行う。

公益認定の基準として財務面で重要になるのは次の三点である。

①公益目的事業の比率が五〇%以上であること（当法人は八二・六%）

②公益目的事業では収益が利益を上回ってはいけない

③遊休財産は公益目的事業費の一年分を超えてはいけない

法人の理事や評議員はこれまで定款や寄附行為に定められていたのだが、新制度では、評議員・理事は法律に定めがあり、例えば、第三者に対する損害賠償責任が明記

されている。

公益社団・財団法人の主要なメリットは何か。

公益社団・財団法人は、法人税法上「公益法人等」として取り扱われ、収益事業から生じた所得についてのみ課税される。

公益社団・財団法人はすべて、所得税法施行令又は法人税法施行令の中で、公益の増進に著しく寄与する法人として挙げられている

「特定公益増進法人」となり、寄附金優遇措置の対象となる。

個人が特定公益増進法人に寄附をしたときは、寄附金額から五千円を引いた金額が寄附金控除として所得から控除される。さらに、寄附金額から五千円を引いた金額の四%が都道府県住民税の額から控除され、六%が市区町村住民税の額から控除される。

このように、公益財団法人には、税制面等で種々の優遇措置が講ぜられており、これまで以上に社会的責任を自覚した活動が求められる。（公益財団法人第五福竜丸平和協会代表理事）

## 多聞寺でラッキードラゴン・クインテット演奏

12月6日午後、東京・墨田区にある真言宗の名刹・多聞寺で「命と平和のコンサート」がひらかれました。30年近くつづくコンサートは、12月8日のお釈迦様が悟りを開いたことの記念「成道会」と太平洋戦争開戦そして12日の真言宗智山派の興教大師の命日にちなみ、命と平和について考えようという思いが込められています。

今回のプログラムには第五福竜丸のために捧げられた林光さん作曲の『ラッキードラゴン・クインテット～完結版～』が組まれました。今年5月の第五福竜丸展示館での初演以来、2回目の演奏でした。本堂に久保山愛吉さんの「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」の言葉の拓本が掛けられている中で演奏に60人ほどの参加者は聴き入っていました。ほかに外山雄三さんの「原爆許すまじによる変奏曲」、パブロ・カザルスの「鳥のうた」も演奏され、子どもからお年寄りまで、音楽を通じて共に命と平和について思いを寄せる雰囲気につつまれたコンサートでした。

## 平和博物館市民ネット交流会開かれる

12月5・6日、平和博物館市民ネットワークの交流会が東京で開かれ、40人が参加しました。

今年の交流会は、初めて「討論のテーマ」を設定しました。その1は、「平和博物館で伝える一体験のをどのように継承するか」、2に「平和博物館での研究活動とその継続」、3は「平和博物館の現況を考える」とし、協会の安田和也事務局長が、展示館でのとりくみ報告を含めて基調報告を行ないました。

各テーマに関しては、ひめゆり平和記念資料館、東京大空襲被災資料センター、ピースおおさかから報告をうけ質疑討論をおこないました。2日間にわたり、テーマに関する意見交換や各館の活動報告

などが活発に行なわれました。

## 黒田さんのパフォーマンスに参加した学生の感想より

●黒田さんが何故核のない世界を目指す活動に参加しているのか。それを行動させる気持ちの真ん中を占めるのは「人は一人では生きていけない」という思いがあるのではないかと。大切な人を守るためには平和な世界を創ることが大前提であると思う。

●このような活動をしている黒田さんとはとてもすばらしいと思いました。でもこのような活動をしている自分へ今でも迷いがあると言っていました。その迷いを吹き飛ばすかのように平和に向けて活動している黒田さんは輝いてみえました。

●絵本（ヒロシマ・ナガサキ議定書）の中に「体験していないから本当の苦しさが判らない」と悩むことはない。体験したら終わりなのだから、繰り返してはならない」という言葉がありました。が、「私たちは体験していないから・・・」ではなくて、体験しなくていいように、繰り返さないようにしなければならぬのだ、と強く思いました。

●人間はつながっている、一人では生きていけない、ということは、確かにそうであると感じた。しかし、それも一つの兵器などで壊せてしまうのではないかと感じた。イベントに参加して、平和を訴えていくのに色々な方法があるのだろうと感じた。自分は一生のんびり暮らして

いようと思っていた黒田さんでさえ、イラストという形で関わっている。いつ、どこで、自分に機会が訪れるのかはわからないものだった。私にとってはこの展覧会、イベントが一つの機会になったのではないと思う。

●私は絵が苦手なので「絵を自由に書いて下さい」といわれると困るのですが、それでも文を書くより、自分なりに絵を残した方が不思議と平和について考えた気がしました。

●クレヨン(?)のような原色を使った色づかひに、何か感じるものがあった。色々な話を聞いて考えることは大切だが、その思いをことばや絵で表現することによってその思いは一層強くなるのではないかと思った。

●「戦争について伝えない大人が悪い」という言葉があったが、だからこそ私たち世代が自ら知る権利があると感じた。改めて大学でこのような勉強ができていくことを幸せに思った。また、「奇跡の子」という言葉が印象的であった。ひとりひとりが命を大切に互いに守りあっていける平和な世界であることを心から祈った。

●とても明るい元気なおじさんだと思いました。原爆反対と言ったり、話したりするのは嫌だと言っていたけれど、心のどこかで「伝えていかなくては」という思いがあるからこそ、絵として表現してきているのだと思います。ことばではなく絵で伝えていくのが私はおもしろいと感じました。

## 2010年3・1ピキニ市民講座

### 核兵器のない世界をつくるために！

いま核兵器の廃絶をめざす動きが内外ですすんでいる。私たちの希いを実現するために、核を巡る状況、市民に求められること、日米・アジアの視点で考えあう  
報告＝スティーブン・リーパー（広島平和文化センター理事長）  
報告＝高原孝生（明治学院大学教授）、コメンテーター＝アーサー・ビナード（詩人）、  
中国、韓国から／ヒロシマ・ナガサキ議定書スライドショーほか

◆2010年3月6日（土）午後1時30分より5時30分

◆会場 明治学院大学白金校舎・国際会議場

◆資料代 500円

◆主催 第五福竜丸平和協会、明治学院大学国際平和研究所